

延暦寺

延暦寺は、日本で最も歴史的に重要な仏教寺院の 1 つです。いにしえより神聖な山として信仰を集めてきた比叡山に位置しています。広大な境内には約 1,700 ヘクタールもの森が広がっています。延暦寺は、京都、大津、そして宇治のいくつかの場所をまとめて登録されたユネスコの世界遺産に指定されています。

延暦寺は、最澄（767-822）という仏教の僧によって 788 年に創建され、天台宗の総本山となっています。また、その他いくつかの仏教の宗派の祖師も、延暦寺で修行を行っています。そのため延暦寺は、日本仏教の「母なる山」として知られています。その長い歴史の中で、延暦寺は中国や朝鮮半島から僧を迎えるなど、様々な試みを取り入れてきました。

延暦寺の境内には、最も多かった時で約 3,000 もの建造物がありました。しかし、1571 年には、境内の全てが武将の織田信長（1534-1582）による襲撃で焼き払われました。信長は日本全国を自身の統治下で統一しようとし、自身に対抗した政治的に強大な寺の多くを破壊しました。延暦寺は徐々に再建され、今日では 150 のお堂やその他の建造物からなります。境内は東塔、西塔、そして横川の 3 つの主な区域に分かれており、それぞれのエリアに本堂があります。

東塔は延暦寺の中核的存在で、国宝殿や延暦寺の本堂である根本中堂があります。根本中堂には、薬師如来像がいくつも安置されており、そのうち 1 つは最澄自身が彫ったものだと言われています。広大な根本中堂には、延暦寺の不滅の法灯も灯されています。788 年に灯されて以来、一切途切れたことがありません。根本中堂は約 60 年ごとに改修されますが、毎回同じケヤキ材とヒノキ材、そして伝統的な銅の瓦が使われます。根本中堂は国宝に指定されています。

西塔は東塔から約 1 キロメートル北にあり、閑静としており桜の木と椿が多く生えています。比叡山は標高が高いため、桜は大津のその他の地域と比べて最大 1 ヶ月遅く咲きます。このように周辺を緑に覆われているので、朱色の常行堂と法華堂はひととき目をひきます。常行堂と法華堂は全く同じ形をしたお堂で、屋根付きの小さな廊下でつながっており、これらをまとめてにない堂と呼びます。僧たちは、それぞれのお堂をそれぞれ異なる修行に用います。

横川は比叡山の最も北にあり、東塔からシャトルバスで行くことができます。秋になると燃えるような赤に染まるもみじの木を分け入る長い小径の先には元三大師堂があります。元三大師堂は、死後元三大師として知られるようになった、かつての延暦寺の住職の良源（912-985）に捧げられています。良源は、延暦寺の復興に身を捧げた人物で、また今日では日本の多くの神社や寺で人気を集めるおみくじの元祖であるとも言われています。